

石巻市

# 文化財だより

## 第25号

### もくじ

雪峰関係資料調査報告 その1	1
田道町遺跡発掘調査報告	13
平成7年度文化財めぐり	21
第42回文化財防火デー	22
指定文化財一覧	23

石巻市教育委員会

## 平成六年度文化財調査報告

## 雪峰関係資料調査報告(二)

## （）雪峰大覚と雪峰庵跡

石巻市文化財保護委員 佐藤 雄一

## 一、雪峰大覚の出自と裸雪峰の由来

石巻市羽黒町菩提山水巖寺の第八世雪峰大覚は俗に裸雪峰と呼ばれて、市民には親しまれてきたのであるが、その出自については、はつきりとしたものが知られていないかった。

従来、雪峰大覚についての市民の理解は、佐藤露江氏の編集になる『石巻市史』の記述によっている。現在、刊行中の『石

巻の歴史』においても、この佐藤露江氏の論説を一步も出るものでないし、したがって、裸雪峰としての雪峰大覚の謎は依然として解明されてはいない。私が平成六年度の石巻市文化財調査の一環として、雪峰大覚を調査はじめ、次の三つの雪峰大覚に関係する出自の資料を得ることができた。

## (1)『石巻市史』

雪峰大覚

唐の人、洒脱の禪僧にして時々衣を棄てて民衆の中に入りて世論を開き、または説法したので、人呼んでも裸か雪峰と呼んだ。書画を良くし、自ら刻し、今猶幾多の遺墨墓碑の名筆を残してい

る。一石字の般若理趣経文の孕籠もあり不動尊を作つて、堂宇を建て、大黒天を彫刻する等遺品多く、雪峰の書は今猶世上尊重されているが最後に雪峰庵を建てた。

尚雪峰は宝曆十年十二月、弟子の天外別伝和尚（当時九世）と共に坐定に入り釈尊成道の日八日、師弟相並んだまま坐脱大寂に入った。生涯を通じて奇言奇行に富み世にも傑出した禪僧であつた。



▶普提山水巖寺山門

◀永巖寺不動堂



存す。臨終に際し後事を遺す。九世天外枕を擁して曰く、師苟も終わらば弟子亦殉ぜんと。乃ち方丈に入りて洗沐衣を整え、両脚同日同刻端然坐化す。実に宝曆十年八月二十二日なりといふ。

## (3)「近世高僧墨蹟目録」

大覺 雪峰

その鄉貫を明らかにしない。法號を永巖寺（第八世、上野龍華院（第二十四世）に住した。宝曆十年示寂。世諱不詳。下總東昌寺妙山と罷巖院雪峰とが閑三利の一つである聰寧寺を相手

どつて起つた訴訟事件で前後十年の係争の後、黙山、雪峰は敗訴となつて、脱衣追放の刑に処せられた。これにより世に「脱衣雪峰」と称された。

天高群象秀 前華菴雪峰書

この雪峰大覚に関する三つの記述を総合すると、次のようにまとめることができると思われる。

すなわち、雪峰大覚は常陸の人で、初め上州御葉山の二十四世として、その道風遠近にふるい、その学は大いなるものがあったが、享保二十年（一七二五）に曹洞宗の大本山總持寺において、

寺第八世。常陸人の。初め私を上州伽葉山に秉り、道風遠近に振るう。僧衆の能を極み、義好文々至る。遂に職を解き法衣を脱し、自ら脱衣道人と号す。而して勤行急務。世を離けて江戸深川に住す。時に戲画を作る。酒呑軽妙世に器量せらる。永巖寺七世利東請うて嗣となす。因縁再三遂に其の法嗣を嗣ぐ。享保年中、新たに不動銅像長

存す。臨終に際し後事を遺す。九世天外枕を擁して曰く、師苟も終わらば弟子亦殉ぜんと。乃ち方丈に入りて洗沐衣を整え、両脚同日同刻端然坐化す。実に宝曆十年八月二十二日なりといふ。

ち、通幻寂盡が開いた四ヶ寺は、總持寺の内五院の一つである妙高庵、誓丹境の永沢寺、越前の大乗寺、同じく聖興寺であるとするが、通説であり、もともとこの説が正しいのであるが、聖興寺ではなく下総の總寧寺であるとする主張が出され、両者がのはげしく対立したのである。そして、この論争が幕府へ訴えられ、裁断をあおぐことになったのである。この事件は単に聖興寺か總寧寺かという單純には片づかない問題をかかえていた。

当時、徳川幕府は関東の曹洞宗をまとめて三つの僧隸に管理統制させる制度を採用していた。三つの僧隸とは下総の總寧寺、下野の大中寺、武藏の竜頭寺であり、これを閑三利と言つた。通幻四箇道場論争の一方は、この閑三利の筆頭的地位を占める總寧寺であったのである。一方、聖興寺が正しいと主張するのは、下総の東昌寺、默山元義と上野沼田竜華院の雪峰大覚の二人であり、当時は寺社奉行に選進していた。

總寧寺の主張は成立し得ないのだが、何といつても僧隸の筆頭であるという時の権威もあるて、大本山總持寺も總寧寺に有利な証言をしたので、幕府も總寧寺の言い分を擁護する立場を取ったので、到頭雪峰、元義は敗訴してしまう。延享元年（一七四四）、訴訟が始まつてから十年目のことであつた。この裁定を下したのが名奉行として知られている大岡越前守であったという。

この裁定に對して、雪峰、元義の二人は、この間違った裁定に對して、宗門の法を守るために決して自分達の主張をま

げなかつたのである。幕府はこのような

## 二、雪峰庵跡とその石碑群

石巻市大瓜休石に雪峰庵跡と伝える古

碑跡をとっている二人に対して、公儀の裁許に違背するということは許しがたい

とあって、法衣を剥いで追放处分ということになつたと言う。

追放といっては住持職を取り上げられ、たというだけにとどまらず、武藏、山城、攝津、和泉、大和、肥前、東海道筋、木曾路筋、下野日光道中、甲斐、駿河、下総各にお構えの場所堅く徘徊つかま

られた地城は広い範囲にわかつており、その处分は厳しさと残酷を極めたものであつたようである。裸雪峰といわれる謂われはこんなところにあつたようである。

しかし、幕府のこの裁定に対して、雪峰元義の弟子達は、幕府の片手落ちな

処置に對して、慇請歎願の形ではあつたが、政道の理不尽な裁定を指揮し続ける

という行動が続いたのである。そのため

三、石巻市内の雪峰庵跡の資料  
石巻市内の雪峰庵跡資料には、次のものが確認された。

a 雪峰の石碑（永嚴寺）

b 「不動明王」の御額（永嚴寺）  
c 富士の絵（永嚴寺）

d 掛軸二本（亀井久兵衛氏）  
e 「紫雲山」の御額（浦谷光明寺）

## 四、これから調査を必要とする事項

a 雪峰庵跡の測量  
b 雪峰庵跡の石碑群

c 雪峰庵跡の石碑群とその関係  
（岩手県正法寺との関係）

d 過去七佛と五十佛  
e 大本山總持寺の雪峰庵跡の資料  
f 然山元義のその後

雪峰庵を営むことになつたのである。そして、稻井大瓜の休石に

雪峰庵跡と伝える古碑跡をとっている二人に対して、公儀の裁許に違背するということは許しがたいとあって、法衣を剥いで追放处分ということになつたと言う。

追放处分を受けた後の雪峰大覚は江戸

深川に住んでいたのであるが、永嚴寺七世利東翁界に請われて永嚴寺八世となつたのである。そして、稻井大瓜の休石に

雪峰庵を営むことになつたのである。

雪峰庵跡と伝える古碑跡をとっている二人に対して、公儀の裁許に違背するということは許しがたいとあって、法衣を剥いで追放处分ということになつたと言う。

追放处分を受けた後の雪峰大覚は江戸

深川に住んでいたのであるが、永嚴寺七

世利東翁界に請われて永嚴寺八世となつたのである。そして、稻井大瓜の休石に

雪峰庵を営むことになつたのである。

雪峰庵跡と伝える古碑跡をとっている二人に対して、公儀の裁許に違背する

ことになつたのである。

追放处分を受けた後の雪峰大覚は江戸



No. 3

高さ：47cm 幅：8cm  
厚さ：5.5cm



No. 2

高さ：52cm 幅：11cm  
厚さ：9cm



No. 1

高さ：91cm 幅：22cm  
厚さ：9cm



No. 6

高さ：54.5cm 幅：11.5cm  
厚さ：3cm



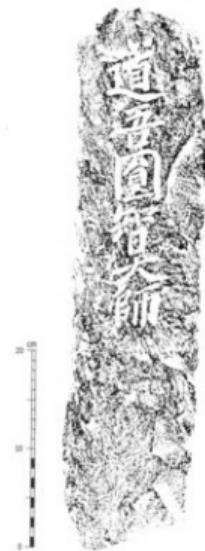
No. 5

高さ：78cm 幅：19cm  
厚さ：3cm



No. 4

高さ：69cm 幅：28.5cm  
厚さ：6cm



No. 9

高さ：58.5cm 幅：13.5cm  
厚さ：11cm



No. 8

高さ：45cm 幅：8cm  
厚さ：7.5cm



No. 7

高さ：71cm 幅：12cm  
厚さ：4cm



No. 12

高さ：145cm 幅：18cm  
厚さ：9cm



No. 11

高さ：107cm 幅：18cm  
厚さ：6cm



No. 10

高さ：70cm 幅：6cm  
厚さ：9cm



No.15

高さ：81cm 幅：20cm  
厚さ：3.5cm



No.14

高さ：85cm 幅：23cm  
厚さ：2.5cm



No.13

高さ：91cm 幅：16cm  
厚さ：3cm



No.18

0  
10  
20

高さ：47cm 幅：9cm  
厚さ：5.5cm



No.17

0  
10  
20 CM

高さ：47cm 幅：11.5cm  
厚さ：7cm



No.16

0  
10  
20

高さ：89cm 幅：27cm  
厚さ：6cm



No.21

高さ：100cm 幅：13.5cm  
厚さ：4cm



No.20

20  
10  
0 cm



No.19

20  
10  
0 cm



No.24

20  
10  
0 cm



No.23

20  
10  
0 cm



No.22

高さ：44cm 幅：13cm  
厚さ：5.5cm

高さ：52cm 幅：12cm  
厚さ：7.5cm

高さ：66cm 幅：10cm  
厚さ：7cm



No.26



No.25-2



No.25-1

高さ：96cm 幅：7cm  
厚さ：10cm

高さ：55cm 幅：16cm  
厚さ：4cm

高さ：55cm 幅：16cm  
厚さ：4cm



No.29



No.28



No.27

高さ：70cm 幅：20cm  
厚さ：3cm

高さ：86cm 幅：16cm  
厚さ：4.5cm

高さ：47cm 幅：5.5cm  
厚さ：3.5cm



No.32

高さ : 66cm 幅 : 10cm  
厚さ : 8 cm



No.31



No.30

高さ : 47cm 幅 : 13cm  
厚さ : 6 cm



No.35

高さ : 102cm 幅 : 11cm  
厚さ : 8 cm



No.34

高さ : 51cm 幅 : 14cm  
厚さ : 4 cm



No.33

高さ : 64.5cm 幅 : 13.5cm  
厚さ : 6 cm



No.38

高さ：95cm 幅：16cm  
厚さ：2.5cm



No.37

高さ：67cm 幅：10cm  
厚さ：7cm



No.36

高さ：88cm 幅：8.5cm  
厚さ：7.5cm



No.41

高さ：47cm 幅：14cm  
厚さ：3.5cm



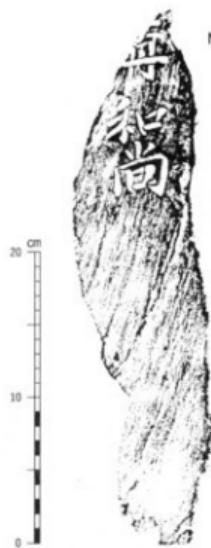
No.40

高さ：82cm 幅：11.5cm  
厚さ：6.5cm



No.39

高さ：61cm 幅：11.5cm  
厚さ：8.5cm



No.44  
高さ：48cm 幅：8cm  
厚さ：5.5cm



No.43  
高さ：57cm 幅：14cm  
厚さ：7cm



No.42  
高さ：53cm 幅：7cm  
厚さ：4.5cm



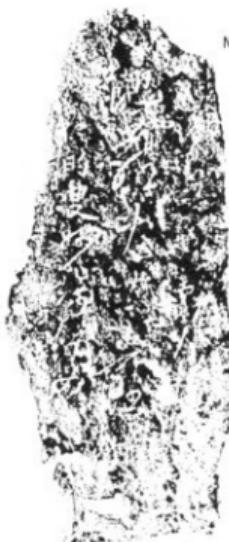
No.47

高さ：130cm 幅：37cm  
厚さ：16cm



No.46

高さ：38cm 幅：11cm  
厚さ：4cm



No.45

高さ：42cm 幅：16cm  
厚さ：4.5cm



No.50

高さ : 53cm 幅 : 16cm  
厚さ : 2cm

No.49

高さ : 48cm 幅 : 19cm  
厚さ : 4cm

No.48

高さ : 97cm 幅 : 13.5cm  
厚さ : 9cm

No.53

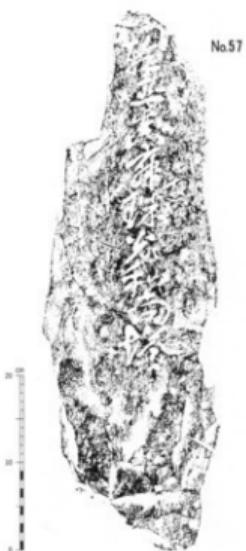
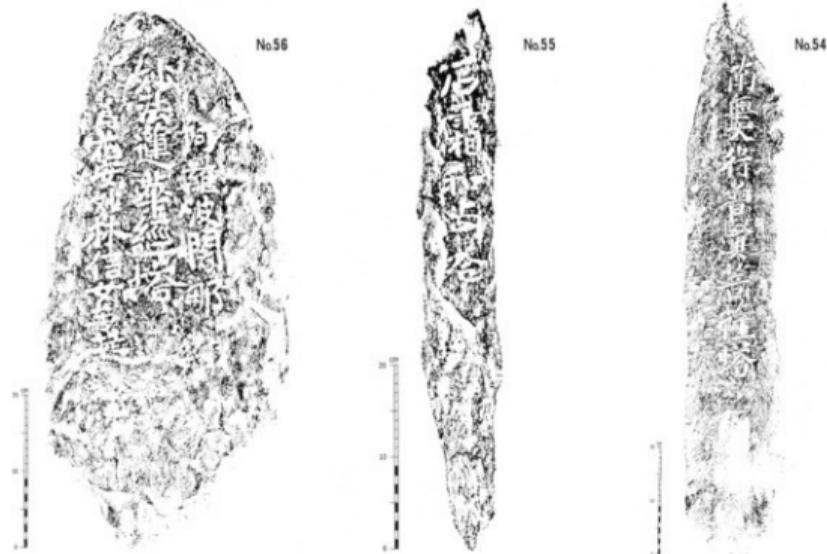
高さ : 134cm 幅 : 46cm  
厚さ : 12cm

No.52

高さ : 56cm 幅 : 27.5cm  
厚さ : 3.5cm

No.51

高さ : 49cm 幅 : 11cm  
厚さ : 3cm



平成七年度

# 田道町遺跡発掘調査報告

## SD 地点

### I 調査実施要綱

#### 【遺跡所在地】

石巻市田道町二丁目地内

#### 【調査対象面積】

一二〇m<sup>2</sup>

#### 【調査期間】

平成七年一〇月一三日  
一二月一五日

地点の発掘調査では、大きさが一〇mの大型住居跡をはじめ、「真野公」と記された出字（すいじ）を示す木簡、銅製の帶金具等が出土し、大きな成果が得られた。

この成果から、田道町遺跡は古墳時代、奈良・平安時代の集落であり、特にC地点は一般集落とは異なり、八世紀から十世紀頃にかけての公的な施設があつたところと考えられる。

今回の発掘調査は、C地点に隣接した約一二〇m<sup>2</sup>を対象にし、平成七年一〇月二三日から実施した。

岡 道夫

### II 調査の概要

#### 【調査参加者】

相沢 敏郎 長谷川 信雄  
飯藤 明子 不流 和夫

### III 田道町遺跡の位置と環境

#### 【調査参加者】

田道町遺跡は、石巻市の中心部にある

日和山の北西麓、田道町一丁目・二丁目

にかけて広がる遺跡で、このうち今回発

掘調査を行ったところは、JR仙石線陸

前山下駅の東、約四〇〇mのところであ

る。この周辺の標高は一・四一・六mと

市内の平野部よりもわずかに高くなつて

いるが、このように平野部のなかのわづ

かに標高の高いところ（微高地）からは、

矢本町の「赤井遺跡」など遺跡が多く発

これは、高いところのほうは水はけが良く、生活するのに条件が良かつたためと考えられる。

### III 田道町遺跡周辺の遺跡

#### 【田道町遺跡周辺の遺跡】

田道町遺跡の二〇〇m程東には、清水尻遺跡がある。この清水尻遺跡からは「上」「毛？」などと墨で書かれた土器墨書土器が出土しており、清水尻遺跡と田道町遺跡との関連性が注目される。

#### 【今回の発掘調査】

今回の発掘調査では、掘立柱建物跡と考えられる柱穴や溝跡が発見された。

#### 【溝 繙】

今回の調査で5条の溝跡を検出した。

これらは、C地点で検出した1、2、3、4、8号の各溝に対応するものである。

いずれも堆積土中から、土範器、須恵器の破片が出土していることから、奈良・平安時代の遺構と考えられる。

特に8号溝は、東側に南北に列をなす直徑二〇cm程度の柱穴を伴つており、C地点の大規模住居や掘立柱建物群と同じ方向性を持つていることから、これら建物群を区画する何らかの施設があつたと考えられる。可能性として溝跡が考えられるが、現段階ではその明確な痕跡が確認されなかつたことから、溝跡としている。

また、この溝を境にして柱の掘り方に違いが見られることから、施設の性格に違いがあることが考えられる。

(2) 昭和五一年の調査では、古墳時代と奈良・平安時代の層の間に礎層が確認されていていたが、今回の調査では、地山層の下に礎層が確認された。

このことから、田道町遺跡周辺の微

### 【掘立柱建物跡】

明確に柱痕跡を伴う柱穴を検出してい

ることから、掘立柱建物跡があつたと考

えられるが、C地点で検出した柱穴とは組み合わないことから、今回の調査範囲の外に広がっているものと考えられる。

また、柱穴の掘り方も浅いものが多く、柱の周りを石で根固めしているものがあ

るなど、C地点（特に8号溝以西）の柱穴の掘り方とは違う特徴が見られる。

### 【その他の】

今回の調査範囲の中央部から、多量の河原石が検出された。当初、石敷道構と考えていたが、確認の結果、地山と認定した層の下から検出されており、河原石の氾濫によって堆積した礎層と認定した。

このことから、この田道町遺跡が形成された以前に、かなり大規模な河川の氾濫があつたことが考えられる。

(1) 8号溝は、大型住居や掘立柱建物跡などの中心的建物群を区画する何らかの施設と考えられる。

また、この溝を境にして柱の掘り方に違いが見られることから、施設の性

格に違いがあることが考えられる。

昭和五一年の調査では、古墳時代と奈

良・平安時代の層の間に礎層が確認されなかつたことから、溝跡としている。

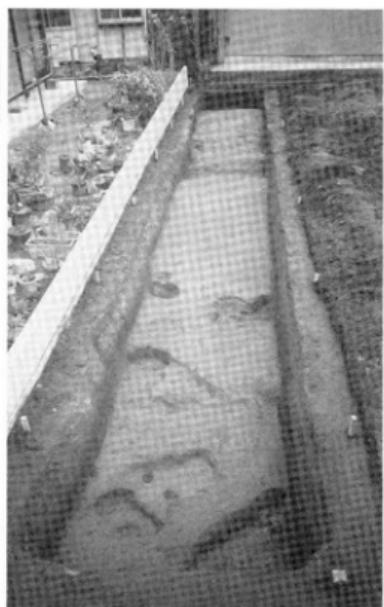
また、東側の柱列は、8号溝と一緒に

格に違いがあることが考えられる。

このことから、田道町遺跡周辺の微

高地が、何度も水害を受けたことが確

認されたことが確認された。

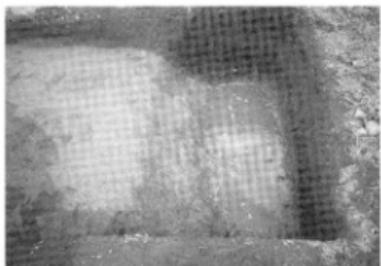




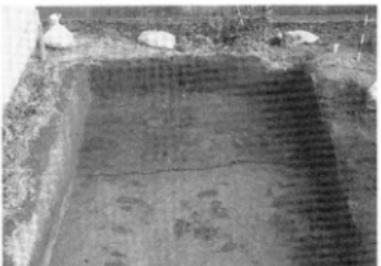
▲発掘調査前の状況（西から）



▲発掘調査前の状況（東から）



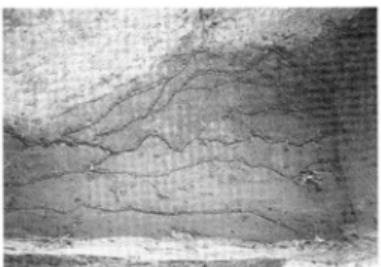
▲2号溝跡発掘状況（東区）



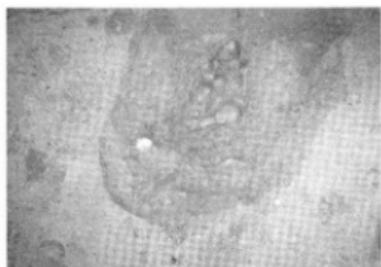
▲2号溝跡検出状況（東区）



▲4号溝跡発掘状況（東区）



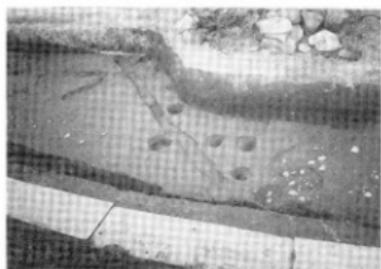
▲2号溝跡セクション（東区）



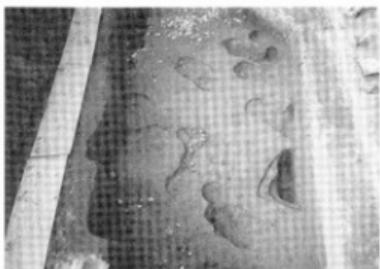
▲2号ピットの根固め石（東区）



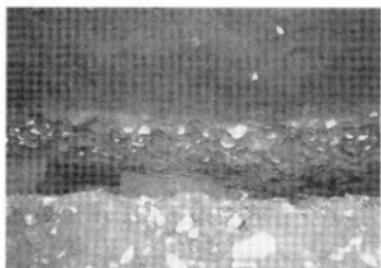
▲1号ピットの根固め石（東区）



▲ 8号溝跡（堀跡？）完掘状況（西区）



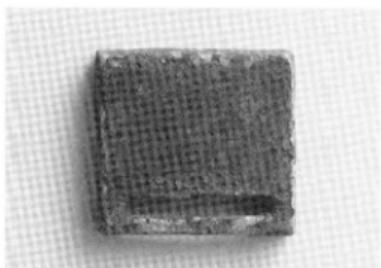
▲ 西区・ピット群の完掘状況



▲ 破の堆積状況（西区）



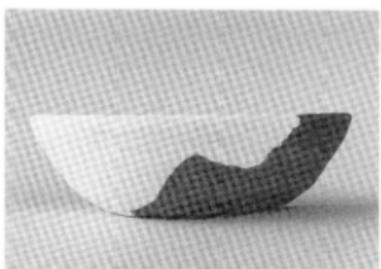
▲ 21号ピット完掘状況（西区）



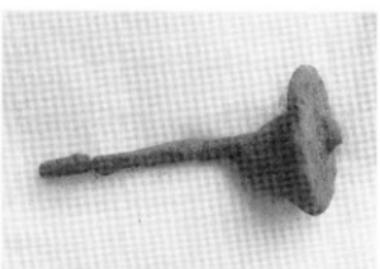
▲ C地点出土銅製帯金具（参考）



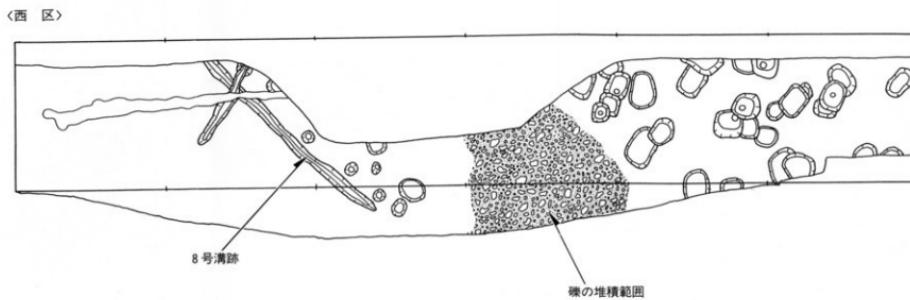
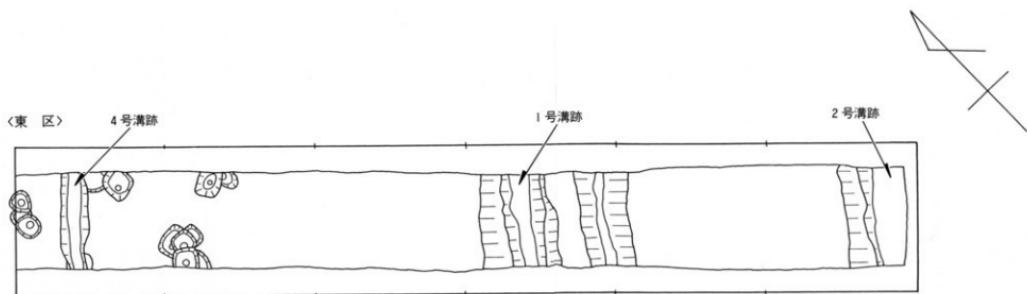
▲ C地点出土木簡赤外線写真（参考）



▲ C地点出土土器器坏（参考）



▲ C地点出土鐵製紡錘車（参考）



0 5 m

田道町遺跡 D 地点遺構配置図



1/400 田道町遺跡 C・D 地点遺構配置図

## 平成七年度文化財めぐり

平成七年度の文化財めぐりは、三回実

施しました。県外の文化財めぐりについ  
ては、例年応募者が多数のため、抽選で  
参加者を決定していましたが、できるだ  
け多くのかたがたに参加していただこう  
と、同一方面で二回実施することとしま  
した。

第一回と第二回は福島県相馬市方面、  
第三回は東和町方面の文化財を見学し、  
さまざまな歴史を心に刻んできました。

第一回・第二回文化財めぐり  
相馬市・松川浦を訪ねて

—福島県相馬市・新地町、  
宮城県山元町の文化財—

期日 第一回 十月二十九日（日）  
第二回 十一月三日（金）  
講師 石垣宏石巻市文化財保護委員  
参加者 第一回 四十三名

午前八時、市役所前を出発し、仙台東  
部道路を通り、一路南下しました。山  
元町の、浜を見下す高台には、唐船番  
所跡があります。これは、外國船の航行  
を監視して代官所に通報するための施設  
で、仙台藩の海岸線に全部で五カ所（山  
元町・鳴瀬町・社鹿町・歌津町・岩手県  
庄田町）に設置されたもの一つです。  
山元町から海沿いの道をとおつて、

▲第一回文化財めぐり



第三回文化財めぐり

東和町・本吉町・牧津町の文化財—  
—東和町・本吉町・牧津町を訪ねて

期日 十一月十二日（日）

講師 石垣宏石巻市文化財保護委員  
参加者 二十四名

文化財めぐりで、宮城県内の各地をか  
なり回りましたが、テーマとしてなかなか  
難しかったのが、キリストン（隠れキ  
リストン）に関するものです。その土地  
の人々の心中には、現在でも密かに生  
き続いている信仰だからなのです。近づ  
きがたいのですが、興味はつきないチー  
マでもあります。そこで、今年の文化財  
めぐりでは、この面白いテーマに敢えて取  
り組んでみることにしました。

石巻市役所前を午前八時三十分に出発  
したバスは、国道四五号から三四二号を  
経て、約五〇分ほどで東和町に入りました。  
同町米川にある不老仙人館は、嘉永五年（一八五二）に仙台藩主伊達狼邦の領  
内北部巡視の際宿泊所として狼羽原に  
建築されたもので、明治三十九年に米谷  
に移築されました。現在は、東和町指定  
文化財として大切に保存され、内部には  
著名な人々の書画をはじめとした数多く  
の文化財が展示・公開されています。  
米谷から北上して米谷に入りますが、  
ここから本吉町馬籠・岩手郡藤沢町にかけ  
ては、「隠れキリストンの里」と称され  
ている地域です。この地域にキリスト教  
が伝わった端緒は、永禄年間（一五六八  
年）に葛西氏の家臣子葉土佐が、

▶第二回文化財めぐり

（七〇）に葛西氏の家臣子葉土佐が、



▶ 第三回文化財めぐり

製鉄技術者でキリシタンだった千松大八郎・小八郎兄弟を招いたことによる、と言われています。しかし、その後キリスト教は幕府の禁令により弾圧され、多くの人々が迫害を受けました。キリシタンとして処刑された後藤寿庵の碑も、米川にあります。また、東和町と藤沢町の境界周辺には刑場跡が点在し、藤沢町大龍のキリシタン殉教公園には、オーブンしたばかりの大籠キリシタン資料館があり、見学場所は豊富です。

帰路には、雪峰で信仰されていた歌津町の田東山に登り、平安時代末期頃の造営と推定される経塚群をめぐり、泊浜の唐船番所から太平洋を眺めるなどして、有意義な一日を過ごしました。

石巻市でも、「文化財防火デー」の趣旨を尊重し、毎年市指定文化財とその所有者及び地主民のかたがたを対象に、防火訓練を実施しています。平成七年度は、市指定文化財「木造薬師如来坐像」を所有している、野原の舍那山長谷寺で訓練を実施しました。

同寺の「木造薬師如来坐像」は、その底部にある墨書きから永保十一年（一五六八）に、京都の「四条東洞院大仏御法眼観音」が制作したものということが知られており、像高三〇センチメートル余りの奇木造りの御像です。

石巻市内では、近世以前の仏像で造像年や仏師の名前がわかるものは貴重であり、中世末期の石巻地方と京都との関係や、背後にあつたであろう武士団の影響等を考える上で、非常に重要な

## 第42回文化財防火デー

意味を持つ作例と言えます。

平成八年一月二六日は、前日からの

気温が居すわったままの寒い一日となりました。午前十時、乾燥・強風の両注意報発令中、長谷寺境内の觀音堂から出火しました。消防隊では、国民一人ひとりに文化財愛護を再認識していただきことを主眼に、この日を中心として全国的に文化財の防火運動を開催しています。

石巻市でも、「文化財防火デー」の趣旨を尊重し、毎年市指定文化財とその所有者及び地主民のかたがたを対象に、防火訓練を実施しています。平成七年度は、市指定文化財「木造薬師如来坐像」を所有している、野原の舍那山長谷寺で訓練を実施しました。

同寺の「木造薬師如来坐像」は、その底部にある墨書きから永保十一年（一五六八）に、京都の「四条東洞院大仏御法眼観音」が制作したものということが知られており、像高三〇センチメートル余りの奇木造りの御像です。

石巻市内では、近世以前の仏像で造像年や仏師の名前がわかるものは貴重であり、中世末期の石巻地方と京都との関係や、背後にあつたであろう武士団の影響等を考える上で、非常に重要な



▶ 放水訓練



◀ 消火訓練

斜面にある寺院なので、凍りついた石段で滑らないように、慎重な行動が必要でした。訓練の後半には雪が降り始めましたが、午前十時十四分に無事訓練を終了することができました。

長谷寺の檀家の方々は勿論ですが、地域住民のかたがた、石巻消防署、同中央分署、同派出所、石巻市消防団等、多くのかたがたにご参加・ご協力をいただき、紙上にお詫申しあげます。

## 石巻市内所在指定文化財一覧

(平成8年3月現在)

## &lt;国指定文化財&gt;

名称	員数	指定年月日	所在地	所有者	時代
重要文化財 岩版	1	昭36.2.1	石巻市住吉町一丁目8-29	毛利伸	繩文
史跡 沼津貝塚	1	昭47.10.21	石巻市沼津字出外		繩文～弥生

## &lt;県指定文化財&gt;

名称	員数	指定年月日	所在地	所有者	時代
牡鹿法印神楽	1	昭46.3.2	石巻市湊字牧山1-1	(代表) 桜谷守雄	
仁斗田貝塚	1	昭50.4.30	石巻市大字田代浜字仁斗田		繩文
鳥屋神社奉納絵馬 「奥州石ノ巻図」	1	昭63.11.29	石巻市羽黒町一丁目7-1	鳥屋神社	近世

## &lt;市指定文化財&gt;

名称	員数	指定年月日	所在地	所有者	時代
多福院板碑群	88	昭50.6.1	石巻市吉野町一丁目1-9	多福院	中世
平塚ツナ家文書	739	(第1次) 昭51.6.1 (第2次) 昭53.4.1	石巻市南浜町一丁目7-30	石巻市	近世
旧石巻ハリストス正教会教会堂	1	昭55.12.20	石巻市中瀬3-18	石巻市	近代
潮音	1	昭55.12.20	石巻市南浜町一丁目7-30	石巻市	現代
イチヨウウ (吉祥寺)	2	昭55.12.20	石巻市高木字寺前48	吉祥寺	
イチヨウウ (龍泉院)	1	昭55.12.20	石巻市水沼字天似113	龍泉院	
葛西楓	3	昭56.5.18	石巻市大瓜字棚橋168	龍洞院	中世
黒潮闕日	1	昭56.5.18	石巻市南浜町一丁目7-30	石巻市	現代
石巻市渡波 獅子風流	1	昭56.12.19	石巻市渡波字西ヶ崎11	(代表) 津田富志義	
漁夫像	1	昭57.12.15	石巻市南浜町一丁目7-30	石巻市	現代
宝筐印塔	1	昭61.12.1	石巻市湊字牧山5番地	零羊崎神社	近世
相輪椎	1	昭61.12.1	石巻市湊字牧山5番地	零羊崎神社	近世
零羊崎神社奉納 絵馬(白馬の図)	1	昭61.12.1	石巻市湊字牧山5番地	零羊崎神社	近世
零羊崎神社奉納 絵馬(黒馬の図)	1	昭61.12.1	石巻市湊字牧山5番地	零羊崎神社	近世
長禅寺「扁額」	1	昭61.12.1	石巻市湊字牧山5番地	零羊崎神社	近世
銅造菩薩立像	1	平元.7.31	石巻市渡波字仁田山2	洞源院	古代
銅造薬師如来立像	1	平元.7.31	石巻市高木字竹下75	日野孝栄	中世
銅造阿弥陀如来立像	1	平元.7.31	石巻市高木字竹下75	日野孝栄	中世
銅造觀音菩薩立像	1	平元.7.31	石巻市高木字竹下75	日野孝栄	中世
木造觀音菩薩坐像	1	平元.7.31	石巻市羽黒町一丁目1-27	永嚴寺	古代・中世
木造薬師如來坐像	1	平元.7.31	石巻市真野字萱原2	長谷寺	中世
渡波塙田つば打ち唄	1	平4.6.1	石巻市流留字赤坂前7-1	阿部龜雄	

## 石巻市教育委員会文化財関係刊行物

石巻市文化財調査報告書第1集	水沼窯跡発掘調査報告
石巻市文化財調査報告書第2集	石巻城跡 — 奥州葛西氏館跡の調査 —
石巻市文化財調査報告書第3集	五松山洞窟遺跡 — 発掘調査報告 —
石巻市文化財調査報告書第4集	田道町遺跡 — A地点発掘調査概報 —
石巻市文化財調査報告書第5集	田道町遺跡 — B・C地点発掘調査概報 —
石巻市文化財調査報告書第6集	箕輪山 — 石巻市大瓜箕輪山貝塚における埋蔵文化財調査報告 —
石巻市文化財調査報告書第7集	田道町遺跡

石巻市文化財だより第1号～第24号

石巻市文化財だより別集・鑄銭場関係資料『金局公用誌』一

石巻市文化財だより別集・鑄銭場関係資料『金局公用誌』二の上

石巻市文化財だより別集・鑄銭場関係資料『金局公用誌』二の下

石巻市文化財だより別集・鑄銭場関係資料『金局公用誌』三

石巻市文化財だより別集・鑄銭場関係資料『金局公用誌』四

石巻市文化財だより別集・鑄銭場関係資料『金局公用誌』五

文化財たんぽう 1

文化財たんぽう 2

文化財たんぽう 3

文化財たんぽう 4

文化財マップ — 遺跡編 —

### 石巻市文化財だより(第25号)

平成8年3月19日 印刷

平成8年3月22日 発行

発行：石巻市教育委員会  
石巻市日和が丘一丁目1番1号  
電話 (0225) 95-1111 内線 345

印刷：株式会社 鈴木印刷所  
石巻市蛇田字新谷地前121  
電話 (0225) 22-4101